

夏越の大祓のご案内

茅の輪くぐりの神事

六月の晦日、恒例の夏越の大祓（おおほらえ）並びに茅の輪くぐりの神事を斎行します。

斎行日

六月二十九日（日）

午後三時

三十日（月）

午後六時

七月

六日（日）

午後四時

予約不要。どなたでも自由に参加できます

玉串料 三〇〇〇円

（二世帯）

授与品 茅の輪飾り

撤下饌

古来我々の先祖は、毎年六月晦日と年末の「大祓」によって心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しました。「一層の「幸せ」の縁をお授かりになりますよう」ご案内申し上げます。



夏越の大祓とは

大祓神事の歴史は古く、大祓詞（中臣祓）は平安時代の法律書「延喜式」（九二七年）に記載され、古代豪族の中臣氏が司る宮中行事でもありました。人が生きる上で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを取り除き、災厄を避け心身を清らかにすることを目的とした神事です。毎年六月の晦日、十二月の晦日の年二回行い、半年ごとの罪穢れをお祓いします。わ

けても、江戸時代以降はこの六月の夏越の大祓には茅の輪くぐりの神事が斎行され、江戸の庶民に広まったとされ、日本中の神社で斎行される伝統行事となりました。当分祠でも毎年欠かさず斎行する恒例行事であり、大きな茅の輪くぐりを手作りして製作しております。初夏に奉仕会の有志が秦野盆地の山に赴き茅を切り出し、それをシュロ紐で結びつけ人がくぐれるほどの大きな茅の輪を作成します。これが大変難しく茅の具合や締め付ける強さなど細心の注意を払う必要があります。均一な太さに編み込むには熟練の技術が必要とされます。

茅の輪くぐりは夏詣期間中6月～8月末ごろまで設置

なんで茅の輪をくぐるの？

その答えは出雲神話（備後国風土記）に伝えられております。ヤマタノオロチを倒した素戔鳴尊（スサノオノミコト）が、旅をしている途中、蘇民将来（ソミンシヨウライ）、巨旦将来（コタンシヨウライ）という兄弟のところで宿を求めたところ、弟の巨旦将来は裕福であつたにも関わらず宿泊を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は貧しいながらも喜んで厚く饗しました。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪ねた素戔鳴尊は「もし悪い病気が流行ることがあつた時には、茅で輪を作り腰につければ病気がからない」と教えられました。

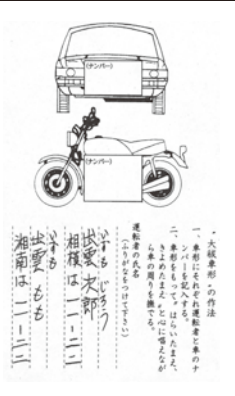
人形・車形の使い方

古くより禊や祓をする時に人間の身代わりとして人形を用いてきました。当分祠では夏越の大祓の際に、人形（ひとがた）・車形（くるまがた）を形代（かたしろ）にして自らの罪穢れを移しお祓いします。人形の紙に氏名を記入し、息を三回吹きかけ、頭から全身気になる場所を撫でこすり、悪い気を取り移してお祓いします。

【当日不参加の方】
ご参列できない方は事前にお預かりの上授与品をお渡しします。人形・車形・玉串料を封筒に入れてご持参ください。
【郵送される場合】
ご参列叶わない方は郵便振込にて御祈願料を添えてご送金下さい。後日記念の縁起物を発送します。

出雲大社における鎮魂の神楽
様々の祭りをを行うに際しては神楽が奏される。神道の音楽の由来を見ると、古く天岩戸神話などの歌舞に見受けられ、言霊としての歌がそうであるよう、神楽もまじないの意味合いが強かった。平素より、当分祠社殿において笛や太鼓の神楽が奏される。これは中国から伝来した雅楽ではなく、島根県出雲地方に伝承する、出雲大社の独自の神楽である。

巫女神楽は、舞人（巫女）・楽太鼓・笛吹の三名で構成される。笛の譜は、「一二三四五六七八九十」で、『先代旧事本紀』天璽瑞宝十種―天津神より饒速日命に十種の神宝が授けられた故事に由来される。十種の神宝を数え上げ、「一二三四五六七八九十」「布瑠倍由良由良布瑠倍」と唱えるヨミガエリのタマフリのまじないで、魂鎮めの鎮魂祭祀である。これを笛の「音」に移したものと見える。巫女舞において、瑞鈴をタマフリしながら神前に向かって円を描くように三周まわり、三回繰り返す。それぞれの三回りの笛の音が「一二三」となる。出雲大社における神楽は、素朴な独特の調子の中に鎮魂の祈りがこめられ、古来より今に伝承されているのである。



七五三詣のご案内



七五三のお祝いとは、子どもたちに元気に育ってほしいとお祈りし三歳、五歳、七歳と成長する様をお祝いの儀式です。

※土日祝日は九時・九時半・十時・十六時半と三十分毎を目安に御祈願を斎行します。ご家族様お揃いの上受付をお済ませ下さい。

七五三とは三歳の男女の「髪置き」、五歳男子の「袴着（はかまぎ）」、七歳女子の「帯解き」のお祝いを指し、三歳・五歳・七歳の三つの祝い事をまとめて「七五三」と呼びます。

※平日は随時お申込みの順にて斎行します。十・三十分程度の待ち時間になります。

◆御祈願料
一万円・七千円・五千円
お子様の授与品として福袋（おもちゃ入り）・御守・千歳飴を授与。

※混雑時は上記の限りではありません。また時間ごとに最大二十四組と一緒に御祈願を斎行します。

◆祈禱受付時間
八時四十分～十六時三十分
（事前の予約は不要（混雑時を除き人数制限なし・おじいちゃんおばあちゃんも昇殿可））

◆耳寄り情報
十月より境内に期間限定で《七五三限定記念写真スポット》《祝い太鼓》を設営します。（無料）（十月～十一月末まで）

◆七五三祈禱は一年を通して毎日受付可。

※出雲記念館にて着付け・記念写真など絶賛受付中